

# 経営比較分析表

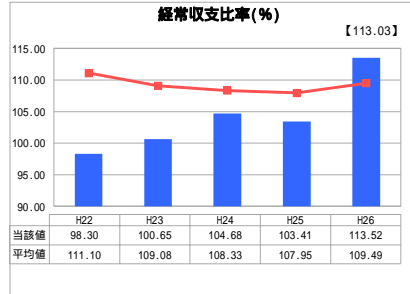
埼玉県 美里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	64.69	99.59	2,225

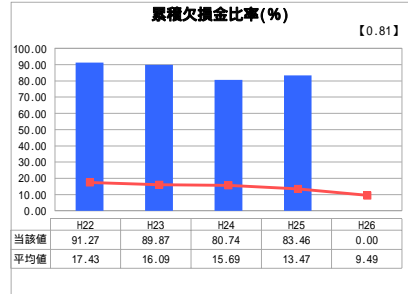
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,589	33.41	346.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,486	32.84	349.76

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

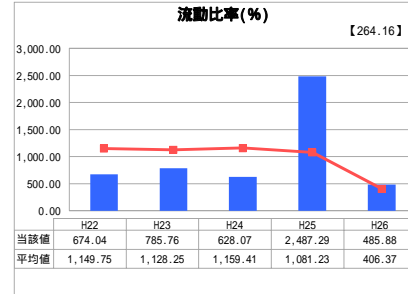
## 1. 経営の健全性・効率性



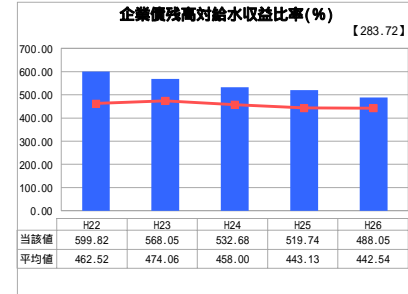
「経常損益」



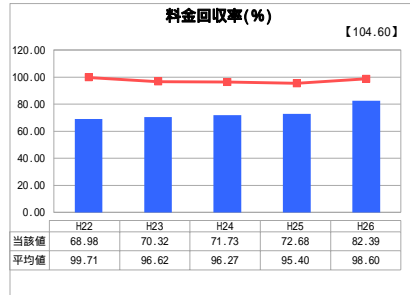
「累積欠損」



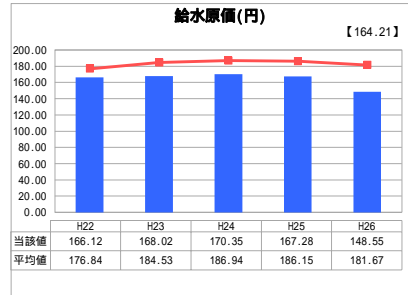
「支払能力」



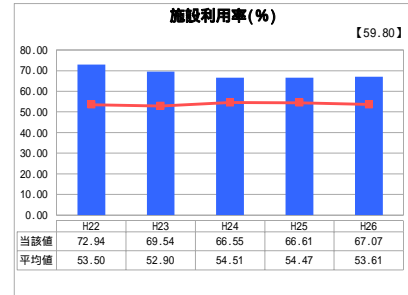
「債務残高」



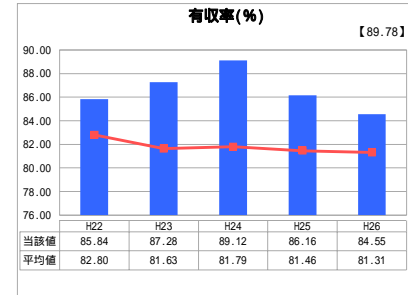
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

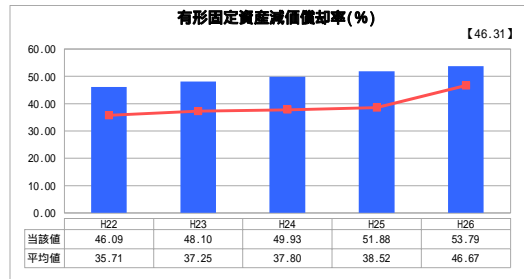


「施設の効率性」

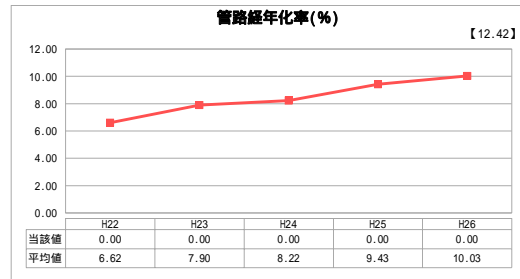


「供給した配水量の効率性」

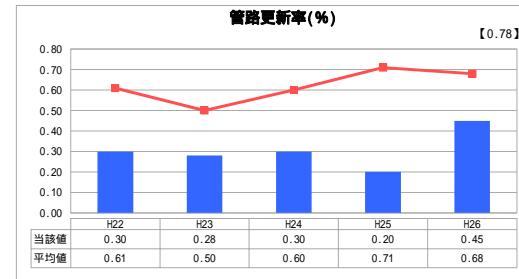
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成23年度～平成25年度は経常収益が経常費用を上回ったが、類似団体と比べると比率は下回っている。平成26年度は比率が大幅に高くなっているが、会計基準の見直しにより収益が増えたことが要因としてあげられる。

平成22年度～平成26年度にかけて累積欠損が多く残っており、類似団体と比べても高い比率であった。平成26年度は会計基準の見直しにより収益が増えたことに加え、大幅に増加したため、欠損金が減少した。

平成22年度～平成26年度にかけて類似団体と比べて比率は下回っていることが多い。平成26年度は会計基準の見直しにより借入金資本金を負債に計上されたため負債が増加し、比率が減少した。

給水収益に対する企業債残高の割合は年々減少しており、類似団体の平均値に近づいている。

平成22年度～平成26年度にかけて料金回収率は増加しているが、給水収益以外の収入である一般会計繰入金で賄われている部分が多い。そのため、平成27年7月に料金改定を行い、給水収益増加を見込んでいる。

給水原価は類似団体と比べて低くなっている。施設利用率は、類似団体と比べて高いため、施設の利用率は適切であり、適正な規模を保っているといえる。

平成26年度は有収水量が減少したため、他の年度よりも有収率が減少した。平成26年度は漏水等が多く配水した水が収益にならなかったことが上げられる。類似団体と比べて有収率が高いため施設の稼働が収益に繋がっているといえる。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は平成22年度～平成26年度にかけて年々増加しており、類似団体と比べても比率が高くなっている。このことから、保有資産が耐用年数に近づいていることがいえる。

「当該値」欄のH25、H26年度数値に誤りがありましたので訂正いたします。

	正	誤
H25	5.59	0.00
H26	7.74	0.00

法定耐用年数を経過した管路は、類似団体と比べると比率は低くなっている。しかし、平成25年度から平成26年度にかけて増加しているため、今後も増加することが予想される。

管路更新率は類似団体と比べて下回っており、更新率は比較的低いと考えられる。

施設や管路等は法定耐用年数に近づいても、超えるものが出てきており、老朽化が進んでいる。必要性の高いものを優先的に更新し、経営に支障のないように努めていく必要がある。

### 全体総括

水道事業の経営状況は、類似団体の平均値と比較しても、全体的に著しい悪化は見られない。しかし、収入に関しては一般会計からの繰入金に依存しており、給水収益だけでは財源の確保ができていない状況である。よって、平成27年度に料金改定を行い、料金収入の確保に努める。また、会計基準の見直しにより、平成26年度と他年度との比較が難しい部分があった。

老朽化の状況に関しては、施設や管路などの老朽化が進んでいるため、更新すべきものから優先的に行うべきである。そのために長期的な計画を立て、適切な財源確保に努めていく必要がある。